

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-141	14-312	慶應義塾大学
題名(原題/訳)		
Dissemination, adoption, and implementation of acamprosate for treating alcohol use disorders. アルコール使用障害を治療するためのアカンプロサートの普及、採用と実行		
執筆者		
Knudsen HK, Roman PM.		
掲載誌		
J Stud Alcohol Drugs. 2014 May;75(3):467-75.		
キーワード	PMID	
アカンプロサート、アルコール使用障害、薬物採用	24766759	
要旨		
<p>目的: アカンプロサートはほぼ 10 年間アルコール使用障害 (AUDs) を治療するために米国で入手できたが、AUD の治療施設内での使用状況に関する調査はほとんどない。 アカンプロサートの普及と採用を調査することに加えて、本研究は、プログラムを採用することの範囲内でその実施の基礎をなす組織的プロセスに関する新しいデータを提供する。</p> <p>方法: データは、AUD の治療を行っている 307 の組織の全米の代表的なサンプルのリーダーとのインタビューから引き出された。 組織の特徴、アカンプロサートの普及、採択と実行の定量的指標は、実施プロセスの質的な計測と同様に、対面する面接により測定された。</p> <p>結果: 標本抽出された組織のうちわずか 18.0% (n = 55) が AUDs を治療するためにアカンプロサートを採用していた。そして、採用は施設の許可と明らかに関係していた。そして、スタッフに医師を持ち、製薬会社の社員よりアカンプロサートに関する情報を受けて、他の治療プロバイダからこの薬物の情報を得ていた。プログラムを適応する患者の範囲内で、AUD 患者の平均 6.0% が現在アカンプロサートを投与されていた。 実施に対して多くの困難性が同定された。それは、適切な患者の選択、処方されたアカンプロサートに対する患者の抵抗感、最適以下の薬剤へのアドヒアランス、経費、限られたカウンセラーの訓練を含んでいた。</p> <p>結論: アカンプロサートの限られた採用と実処方、AUD 治療の補助的手段としての潜在的公衆健康への影響をおそらく制限する。 組織のリーダー、医療専門家と患者の展望を集積する研究は、特定の戦略が本研究で同定される実施への困難性を明らかにすることができ、専門 AUD 治療施設内でアカンプロサートの使用を増加させることができるかを決定するために必要である。</p>		